

第7章 片山津地域の方針

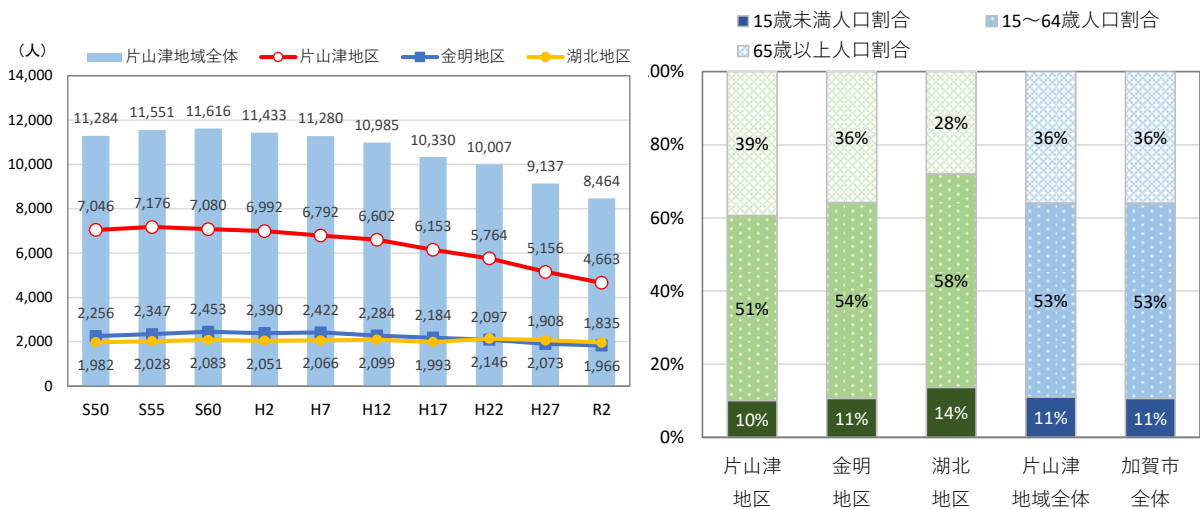
1) 片山津地域の現況及び課題

(1) 人口

片山津地域の人口は、昭和60年のピーク時から令和2年までの35年間で3,152人(27%)減少しています。

地区別の人口では、ピーク時と比較すると、片山津地区の減少割合が高くなっています。

年齢別の割合について、市全体と各地区を比較すると、片山津地区の老年人口(65歳以上)の割合が高くなっています。



(2) 地域の特徴

自然

多くの水生植物が見られる柴山湯の湖畔には、鴨やコハクチョウなどが飛来し、特徴的な海岸風景の尼御前岬が存在するほか、篠原町では国指定天然記念物の金明竹が自生しています。

歴史・文化

地域の発展を担ってきた片山津温泉に加え、柴山貝塚や片山津玉造遺跡など縄文・弥生時代の遺跡のほか、源平合戦の舞台となった篠原古戦場の史跡である実盛塚、首洗池など多くの歴史文化資産が残されています。

都市基盤施設

片山津インターチェンジを有し、主要地方道山中伊切線などの幹線道路が地域内を通っており、都市計画道路合河片山津線の整備を進めています。また、柴山湯周辺には、柴山湯湖畔公園や砂走公園あいあい広場などの都市公園のほか、石川病院や中谷宇吉郎雪の科学館などの公共公益施設が立地しています。

災害・防災

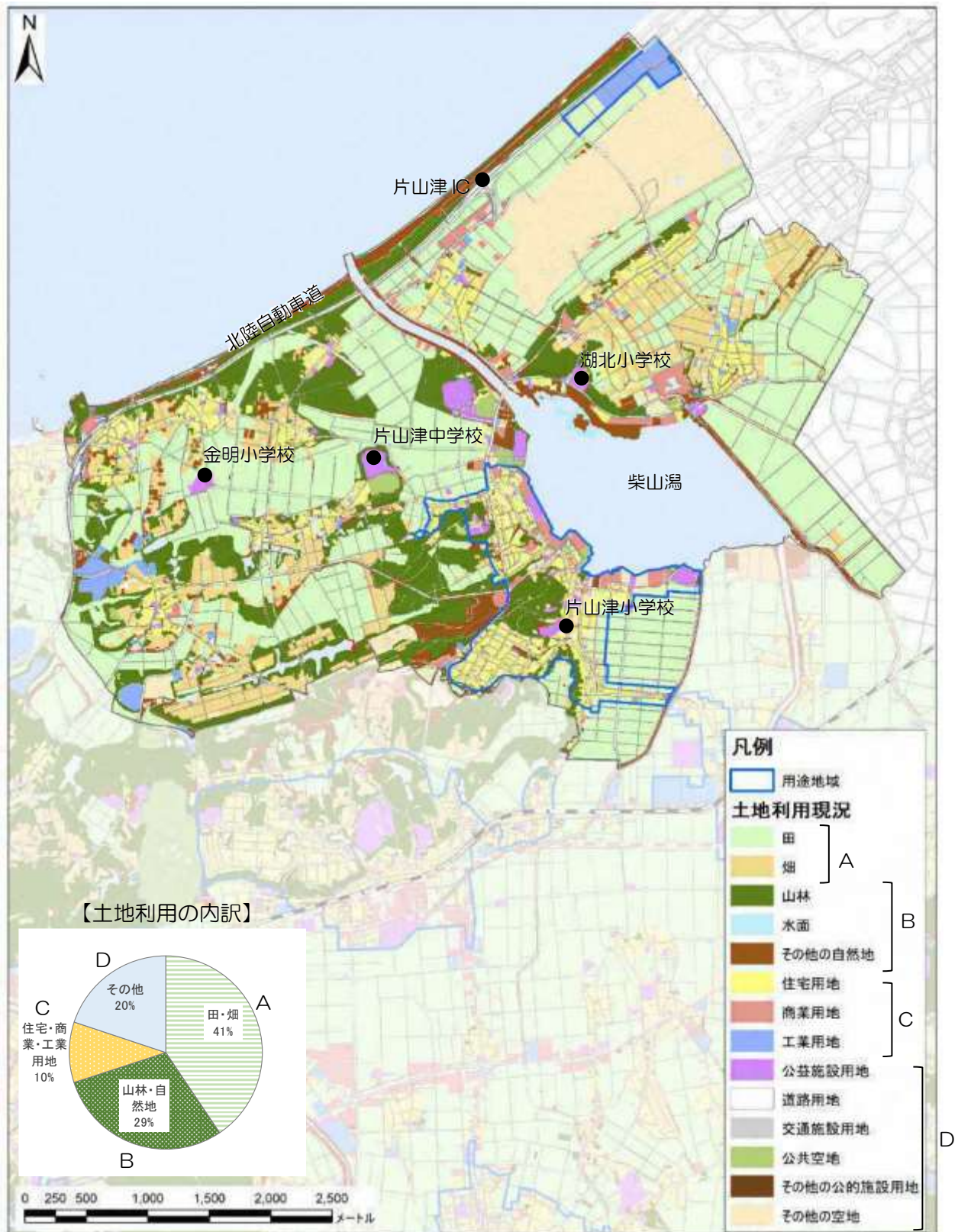
片山津市街地の一部が動橋川(柴山湯)の浸水想定区域になっており、柴山湯東部は津波の浸水想定区域になっています。

(3) 土地利用

日本海に沿って東西に北陸自動車道が通り、柴山潟湖畔の片山津温泉を中心に市街地が形成されているほか、地域の外縁部には工場が立地しています。

柴山潟から流れ出る新堀川が日本海にそそいでおり、平野部及び丘陵部には農地、市境の松林はゴルフ場になっています。

【片山津地域の土地利用現況図】



(4) 市民アンケート調査による住民意向

豊かな自然が地区の魅力として挙げられており、住まい環境については、満足されているほか、開発については、空き地や空き家の活用が求められています。

工場については、住環境に影響がなければ地区内での立地を容認する意見が多いほか、商業施設については、店舗が近くになくて不便との意見が挙がっています。

公園、緑、景観、防災・防犯については、特に問題ないとの意見が多く、概ね満足されていることがうかがえるほか、道路や交通施設については、雪に強く安全で快適な道路を求める意見が多く挙がっています。

【地区の魅力】

①	自然が豊か	48%
②	温泉がある	43%
③	災害の心配が少ない	28%

【開発について】

①	空き地・空き家を活用すべき	42%
②	農地等での多少の宅地開発はよい	40%
③	積極的に宅地開発を行うべき	14%

【住まい環境について】

①	満足している	40%
②	災害が不安	30%
③	防犯・防災上不安	27%

【工場について】

①	住環境に影響がなければ地区内に工場があっても良い	55%
②	住環境に影響がなければ家の近くにあっても良い	22%
③	地区内には新たな工場の進出は望まない	14%

【商業施設の状況について】

①	生活必需品を扱う店舗が無くて不便	31%
②	徒歩圏に大型商業施設等があると良い	30%
③	特に問題ない	28%

【道路や交通施設について】

①	雪に強い道路が必要	43%
②	安全で快適な道路が必要	26%
③	特に問題ない	16%

【公園について】

①	特に問題ない	39%
②	地区のイベント等ができる公園が必要	27%
③	遊具・スポーツ施設等が充実した公園が必要	16%

【緑について】

①	特に問題ない	48%
②	街路樹はこれ以上必要ない	23%
③	里山や森の自然を保全すべき	21%

【景観について】

①	特に問題ない	51%
②	白山連峰などの自然景観・眺望を保全すべき	33%
③	里山や田畑などの風景を保全すべき	15%

【防災・防犯について】

①	特に問題ない	26%
②	防犯灯・街路灯の充実	21%
③	空き家の防犯対策	19%

(5) 地域別懇談会からみる住民意向

主要地方道山中伊切線などにおける夜間の安全対策や、柴山潟湖畔公園の利活用のほか、公共交通の利用に関するわかりやすい情報発信が求められています。

また、柴山潟へのごみ流入防止対策のほか、旅館や空き家を避難所とした活用などが求められています。

【地域別懇談会で出された意見の要旨】

区分	出された主な意見
道路・公園	<ul style="list-style-type: none"> ○主要地方道山中伊切線など、夜間暗い道路が多く危険 ○主要地方道山中伊切線など、通行・走行環境の改善 ○片山津インターチェンジ出口に信号がなく危険 ○柴山潟沿いの遊歩道整備の促進 ○柴山潟沿いなどの自転車道の整備 ○柴山潟湖畔公園の利活用 ○柴山潟の景観を活かした公園整備 ○湖北地区に公園が不足
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ○公共交通の利用に関するわかりやすい情報発信 ○高齢者の移動にあわせたりあい号の運行 ○地区間を乗継なしで移動できるルートの見直し
環境・景観	<ul style="list-style-type: none"> ○柴山潟へのごみ流入防止対策 ○柴山潟湖岸の草刈り等による景観保全 ○空き家対策に関する支援等の充実 ○野良猫などの対策 ○空き家、廃業旅館等の活用 ○新保海岸の砂浜減少対策
防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> ○旅館や空き家を避難所とした活用 ○柴山潟周辺の浸水対策 ○常願寺周辺の土砂災害が心配 ○災害備蓄品の充実 ○新堀川堤防沿いの除草など、維持管理の徹底 ○災害の危険性がある箇所での建築制限
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○花火の時期など、駐車場が不足 ○片山津インターチェンジ産業団地など、工業地帯の拡充 ○ガーデンシティ構想実現に向けた具体的な取り組みの推進 ○片山津玉造遺跡の保全



(6) 片山津地域の課題

地域が抱える課題は、全体構想をはじめ地域の現況や住民意向などを踏まえ、体系的整理して抽出します。

分類	地域の課題
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ○定住促進をめざし、良好な住環境を保全しつつ、空き地や空き家を活用した、ゆとりある居住空間の創出 ○スマート化を意識した便利施設の誘導による市街地のコンパクト化 ○廃業旅館対策 ○片山津インターチェンジ周辺における新たな工業用地の整備 ○市街地周辺における住宅地開発の抑制、自然環境や優良農地の保全
人口	<ul style="list-style-type: none"> ○人口減少の歯止め ○高齢化や障がい者などに対応した都市施設のユニバーサルデザイン化
都市基盤施設	<ul style="list-style-type: none"> ○都市計画道路合河片山津線の整備促進 ○幹線道路における走行空間の改善と安全対策 ○湖岸の周遊歩道や自転車走行空間の整備促進 ○柴山潟の景観を活かした公園整備 ○既存公園の利活用促進 ○柴山潟周辺における駐車スペースの確保 ○公共交通の利便性向上
自然	<ul style="list-style-type: none"> ○水質浄化やごみ対策などによる柴山潟の環境保全 ○海岸や実盛塚の松枯れ対策や海岸線の保全と有効活用 ○柴山潟や新堀川沿いの道路及び高台からの白山眺望の保全
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> ○首洗池や実盛塚をはじめとする歴史文化資産の保全と活用 ○宮地廃寺の利活用
産業	<ul style="list-style-type: none"> ○総湯を核とした魅力ある温泉街の整備と温泉産業の振興 ○工業地の工場立地促進
災害・防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> ○河川や水路の適正管理と柴山潟周辺の浸水対策 ○土砂災害対策の推進 ○津波に対する避難体制 ○空き家対策や防犯灯等による防犯対策

2) 片山津地域の将来都市像

(1) 将来都市像

温泉と柴山潟と歴史文化資産の恵みを活かしたコンパクトなまち

柴山潟の自然環境を有する温泉を中心とした地域として、古代・中世の歴史文化資産を活かした賑わい創出に加え、企業誘致と工業地の充実を図り、住みよく活力が集約された地域を目指します。

(2) 実現に向けた基本方針

○魅力ある温泉地づくりと活力ある商店街の形成

総湯とその周辺を中心とした市街地においては、住民と商店街・宿泊施設等が協力し、商店街の活性化及び魅力的なまちなみづくり等により、市街地と柴山潟が一体となった、温泉地の魅力と賑わいの創出を図ります。

また、まちづくり活動や住民交流の活性化のほか、定住促進を図るため、良好な住環境と職住近接のまちづくり推進に加え、スマート化を意識した利便施設の誘導により、コンパクトな市街地の形成を図ります。

○郊外集落の活性化とコミュニティの維持

田畑に囲まれた集落においては、公共交通の確保や地域活動の支援などにより、集落の活性化とコミュニティの維持を図るほか、周辺農地を保全するため、宅地化の拡大を抑制します。また、柴山潟周辺において、観光振興及び防災対策に寄与する公園整備を検討します。

○柴山潟の自然等と共生する魅力ある地域づくり

柴山潟湖岸の遊歩道の整備を促進し、柴山潟を身近に感じる観光地の形成とともに、眺望景観を保全し、魅力ある地域づくりを進めます。また、地域の歴史文化資産や片山津海岸を保全・活用し、地域全体の魅力向上を図ることに加え、洪水や浸水に対する備えを充実し、地域の安全・安心の向上を図ります。

○インターチェンジや幹線道路沿道の工場立地

本市と地域の活力維持や就業の場の確保のため、片山津インターチェンジの交通利便性を活かし、新保北地区周辺における工場団地の拡充や小塩辻工場団地の充実を図ります。また、幹線道路沿いにおいて新たな工業団地の整備を検討します。

○公共交通の利便性向上と都市基盤の整備

公共交通の利便性向上を図るとともに、都市計画道路の整備促進などの都市基盤を充実することにより、住みやすい市街地環境を整えます。

3) 片山津地域のまちづくり方針

(1) 土地利用の方針

居住地区

市街地内の一戸建て住宅や共同住宅を中心とした住宅地は、良好な住環境の保全と充実を図ります。また、市街地に多く存在する空き家は、空き家バンクへの登録を推奨し、積極的活用を図り、特に傷みの激しい空き家は、管理者による撤去などの対策を促進します。

職住が共存する地区は、住民の日常利便性を確保しつつ、商店や事務所及び町工場などの小規模な商工業施設と共存を図り、地域活力を生み出す産業機能の確保と定住促進をめざします。

沿道利活用地区

主要地方道山中伊切線（(都)片山津インター山代線(手塚町～湖城町)）や主要地方道小松加賀線（(都)木曾街道線(新保町～伊切町)）の沿道は、良好な景観保全や周辺住宅地と調和した適切な土地利用に配慮しつつ、交通利便性を活かした施設の立地を誘導します。

温泉文化地区

柴山湯と白山を望む湖畔の温泉街は、宿泊施設や商店街及び住民が連携し、総湯を中心とした魅力向上に加え、自然の恵みである温泉を市民と観光客が共に享受できる滞在型の温泉観光地づくりを推進します。また、生活利便施設の誘導と、住宅地の住環境の改善を図り、商業や住居が共存した利便性の高い地域づくりを進めるほか、空き家は積極的に店舗などに活用してもらうことで、地区の魅力向上と賑わい創出を図ります。

工業集積地区

小塩辻工場団地と新保北地区は、周辺の住環境や自然環境と調和した緑豊かな工業集積地の形成を推進し、主要地方道山中伊切線等の幹線道路沿いにおいては、工業地整備を検討します。

田園・集落地区

農村集落では、周囲の田園や丘陵地との共存を維持し、周辺部での開発抑制を図るほか、優良農地を保全するとともに、農産物の高付加価値化や地産地消を推進し、地域の農業振興を図ります。

海岸保全活用地区

越前加賀海岸国定公園内の手塚山公園や実盛塚などは、自然環境や景観の保全・活用に努めるほか、サービスエリアに隣接する尼御前岬の特徴ある海食崖の地形保全に加え、片山津海岸の砂浜の再生を図ります。また、柴山湯湖畔公園に隣接する遊休地は、眺望景観をはじめ自然的資源を活用した観光振興や交流促進の拠点として整備し、地域活性化の推進を図ります。

丘陵保全活用地区

片山津市街地の背後に広がる丘陵地は、身近な里山として環境保全するほか、ゴルフ場は、本市の重要な観光資源として、周辺の自然環境への影響に十分配慮しつつ、現状のエリアを維持します。

(2) 都市基盤整備の方針

(2-1) 道路の整備方針

幹線道路

主要地方道小松加賀線（(都)木曾街道線）は、小松空港、片山津インターチェンジ、大聖寺地域などを結ぶ機能維持を図るほか、主要地方道山中伊切線（(都)片山津インター山代線）など幹線道路は、良好な通行環境を確保します。

都市計画道路合河片山津線は、市街地内及び小松方面の交通アクセスの円滑化を図る道路として整備を進めます。

生活道路

市街地や集落における幅員の狭い道路や線形の悪い道路については、通学や防災、交通安全面から優先度を定めて、順次、拡幅や線形改良、見通しの改善を行います。

自動車と自転車、歩行者の空間が混在している路線については、路線の状況に応じた歩車空間の共有化により、それぞれの安全性を確保します。

まちなか道路

柴山湯周辺にある、手塚山公園、湯の元公園、総湯などをはじめ、柴山湯の外縁を巡る道路については、歩行者や自転車が楽しみながら散策できるルートと位置づけ、安全かつ快適な通行空間を整備します。

(2-2) 公共交通の方針

バス交通は、路線バス温泉片山津線及び観光周遊バス（キャン・バス）の維持及び市民利用の促進を図ります。

バス路線のない地区においては、デマンド交通の運行により運行本数やサービス内容の改善につとめ、分かりやすい運行情報の提供や利用促進を図ります。また、地区の利用状況に応じ、停留地点、運行本数などを見直し、MaaSなどデジタル技術を活用することでサービスの質向上を図ります。

(2-3) 公園・緑地の整備方針

柴山湯湖畔公園などの既存公園は、多世代交流や自然にふれあう場として機能の充実を図ります。また、柴山湯湖畔公園とその隣接地を対象に、自然的資源を活用した観光振興や交流促進の拠点としての整備を行い、地域活性化の推進を図ります。

本地域では、街区公園や近隣公園、その他の身近な広場等が整備されており、利用者ニーズの対応とユニバーサルデザイン化による利用しやすい公園の充実を図ります。

これらの公園・緑地・広場の維持管理は、地区住民等によるアドプトプログラムでの維持管理を促進し、施設の適正管理と地区住民の愛着醸成を図ります。

(3) 環境保全・形成の方針

自然環境の保全

海岸や柴山潟、新堀川などの河川や、地域内に点在するため池などは、生態系に配慮した水辺環境整備を推進するほか、下水道の加入などの促進により、生活排水による水質の悪化を防止します。また、河川ゴミの発生を抑え、回収・処分を効率化する方法を検討します。

海岸部の保安林は、動植物の生息地、防風・飛砂防止など重要な自然資源であり、森林の松枯れ対策と機能保全を図るほか、集落周辺の丘陵地や平野部の里山及び農地は、動植物の生息地及び水源の涵養地として保全します。

生活環境の保全・形成

市街地の良好な環境と景観が維持されるよう、地域住民が主体となった美化活動の推進や作業の効率化を支援するほか、夜間まで営業する店舗や施設などは、適切な場所への立地を誘導します。また、温泉街を訪れる観光客の存在が地域住民の迷惑とならないよう、地域と温泉事業者等との間でのルールの下、地域住民の生活環境の保全に努めます。

市民や事業者の理解と協力を得ながら、民有地における緑の保全と育成を図り、また、河川や道路の緑を軸として、住宅地や商店街などは生け垣設置や緑化により、沿道空間の緑のネットワークの形成を誘導します。

農林業に有害な動物の出没がみられる地区においては、農地などを害獣から守る柵の設置や必要に応じた捕獲により、農林業被害の防止や生活環境の保全に努めます。

(4) 景観保全・形成の方針

自然景観

尼御前岬などの海岸や集落の後背丘陵地の森林における自然景観の保全に加え、柴山潟や新堀川では、自然景観を楽しめる散策路の整備を推進するほか、片山津海岸では、養浜により海岸・海浜を再生します。

歴史・文化的、伝統的景観

実盛塚や柴山貝塚及び宮地廃寺跡など歴史文化資産の活用により、良好な景観を創出します。

眺望景観

源平橋をはじめとした柴山潟越しの白山眺望点は、建築物の高さ規制など、景観の阻害要因の規制・誘導により、良好な眺望景観を保全します。

市街地景観

総湯周辺では、温泉客がそぞろ歩きをしながら温泉情緒を味わえるよう、建築物の意匠やデザインの統一によるまちなみ景観の形成を目指すほか、住民参加による清掃や緑化に努めます。

集落周辺の里山や農地では、屋外広告物の抑制や農地の保全により、田園集落の景観を保全するほか、片山津インターチェンジ付近は、屋外広告物の規制により、景観保全を図ります。

(5) 防災・防犯の方針

災害の未然防止

温泉街の近くに存在する土砂災害が懸念される箇所での防災対策をはじめ、地域内に点在するため池などでの洪水対策や柴山湯周辺での浸水対策などのほか、海岸部における津波・高潮・高波及び防砂・防風対策など、自然災害の減災を図ります。

雪害対策では、主要地方道小松加賀線をはじめとした幹線道路の重点的な除雪を働きかけるとともに、通学路や生活道路の優先的除雪など、迅速かつ効率的な除雪体制を市民と協働で構築します。

被害抑制

地震や豪雨による洪水などの大規模災害に備え、地区会館や学校などの災害避難拠点や避難場所となる公園などの防災機能強化に努めます。災害避難拠点の指定に際しては、洪水時にも安全を確保できる場所や避難経路を考慮して検討します。

温泉市街地の建物密集地では、建物の耐震化促進のほか、生活に必要な施設の耐震化整備や市街地及び集落における消防水利施設の充実を図ります。

交通安全・防犯

片山津インターチェンジの出入り口や、市街地における見通しの確保や自動車への注意喚起と速度抑制による交通の安全確保を進めるほか、防犯灯等の設置や廃業旅館・老朽空き家の撤去の促進などにより、安全で安心なまちづくりを推進します。

【片山津地域のまちづくり方針図】

